



科学技術分野における 女性の活躍促進について

令和5年1月31日
内閣府男女共同参画局

政府における科学技術分野における男女共同参画の推進の取組

○ 第5次男女共同参画基本計画においては、以下の4つの柱ごとに基本的方向と具体的な取組を定めた上で、取組を進めている。

1. 科学技術・学術分野における女性の参画拡大

* 科学技術分野における女性の採用・登用の促進、人材の育成 等

2. 男女共同参画と性差の視点を踏まえた研究の促進

* 性差を考慮した研究・技術開発(ジェンダード・イノベーション)の促進 等

3. 男女の研究者・技術者が共に働き続けやすい研究環境の整備

* 研究活動と育児・介護等の両立に対する支援及び環境整備 等

4. 女子学生・生徒の理工系分野の選択促進及び理工系人材の育成

* 理工系人材の育成、理工系分野に関する女子生徒、保護者及び教員の理解促進 等

○ 今年度、科学技術分野における男女共同参画の推進に関連する以下のような文書も取りまとめられており、政府においては、これらに基づき積極的に取組を行っている。

・ 総合科学技術・イノベーション会議 教育・人材育成ワーキンググループ

「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」(令和4年6月2日)

・ 教育未来創造会議

「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について(第一次提言)」(令和4年5月10日)

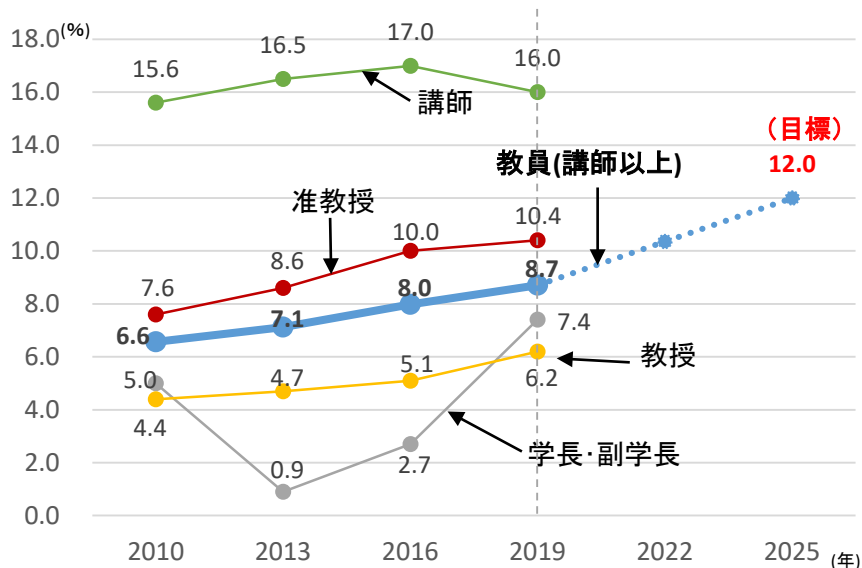
※ 同提言の工程表は同年9月に公表

第5次男女共同参画基本計画の成果目標と現状

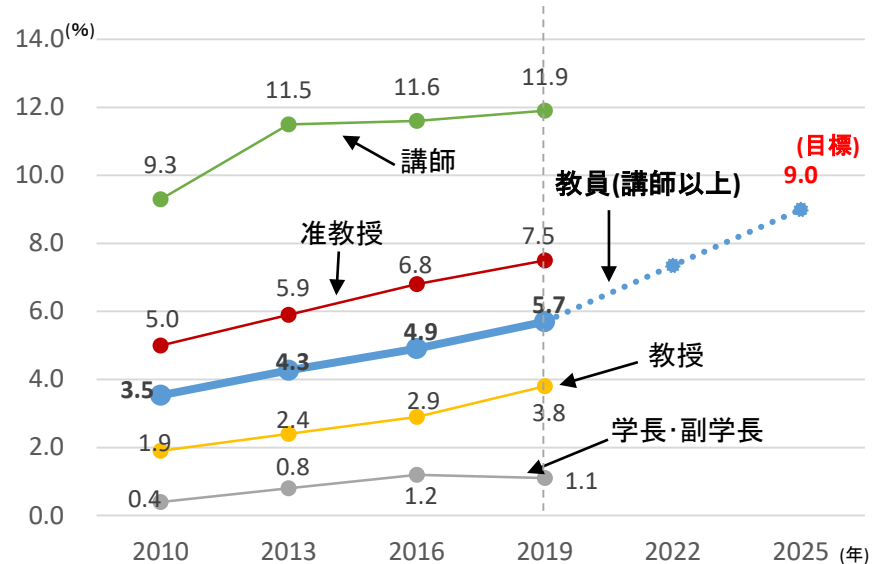
項目	成果目標（期限）
①大学の理工系の教員（講師以上）に占める女性の割合	理学系：12.0%、工学系：9.0%（2025年）
②大学の研究者の採用に占める女性の割合	理学系：20%、工学系：15%、 農学系：30%、医歯薬学系：30%、 人文科学系45%、社会科学系：30% （2025年）
③大学（学部）の理工系の学生に占める女性の割合	前年度以上（毎年度）

①大学の理工系の教員（講師以上）に占める女性の割合

【理学系】



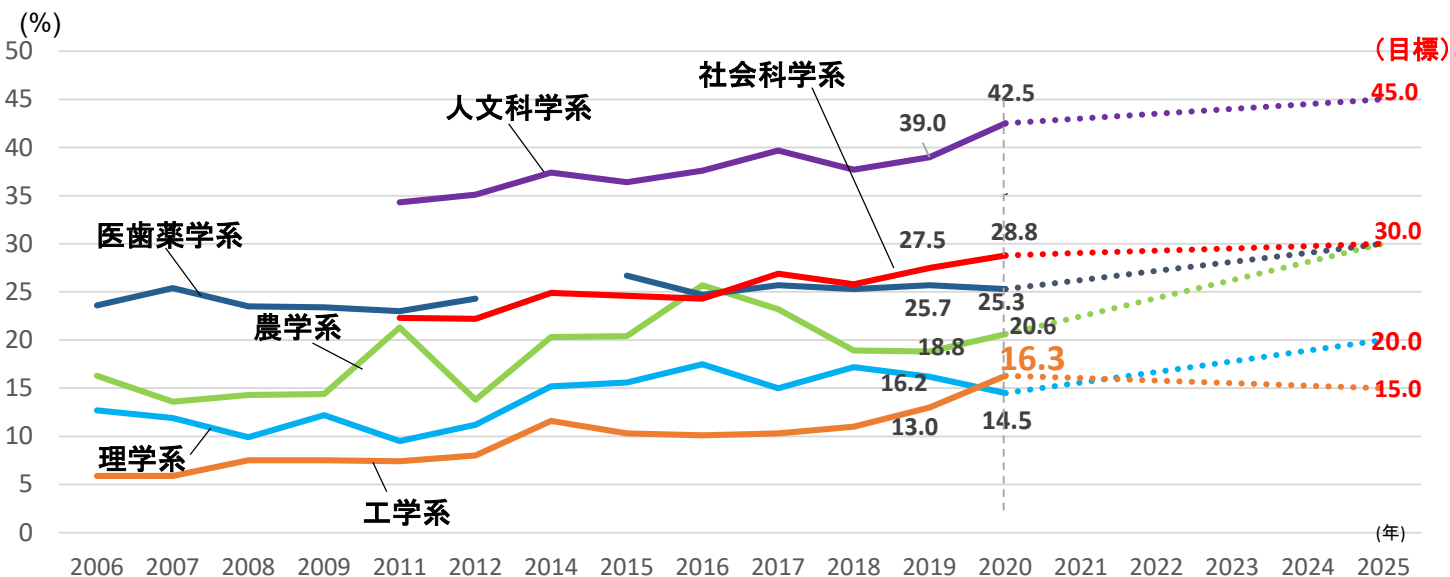
【工学系】



資料出所：文部科学省「教員統計調査」
※資料出所は、実績値の出所を示すもの

第5次男女共同参画基本計画の成果目標と現状

②大学の研究者の採用に占める女性の割合

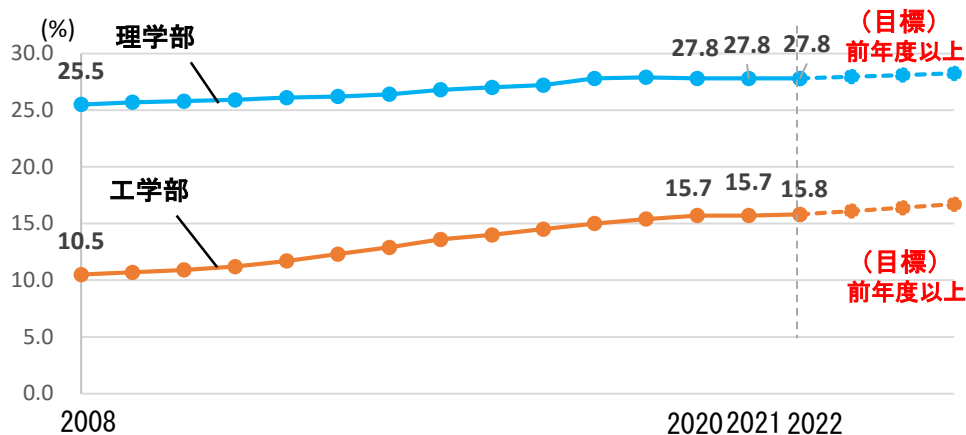


資料出所: 文部科学省

※大学が採用した教員(非常勤教員を除く)のうち、教授、准教授、講師、助教について集計。

※2014年は、「保健系(医学・歯学・薬学系)」と「保健系(その他)」を区別せず、保健系全体の数値を集計している。

③大学(学部)の理工系の学生に占める女性の割合



※2022年度女子学生数

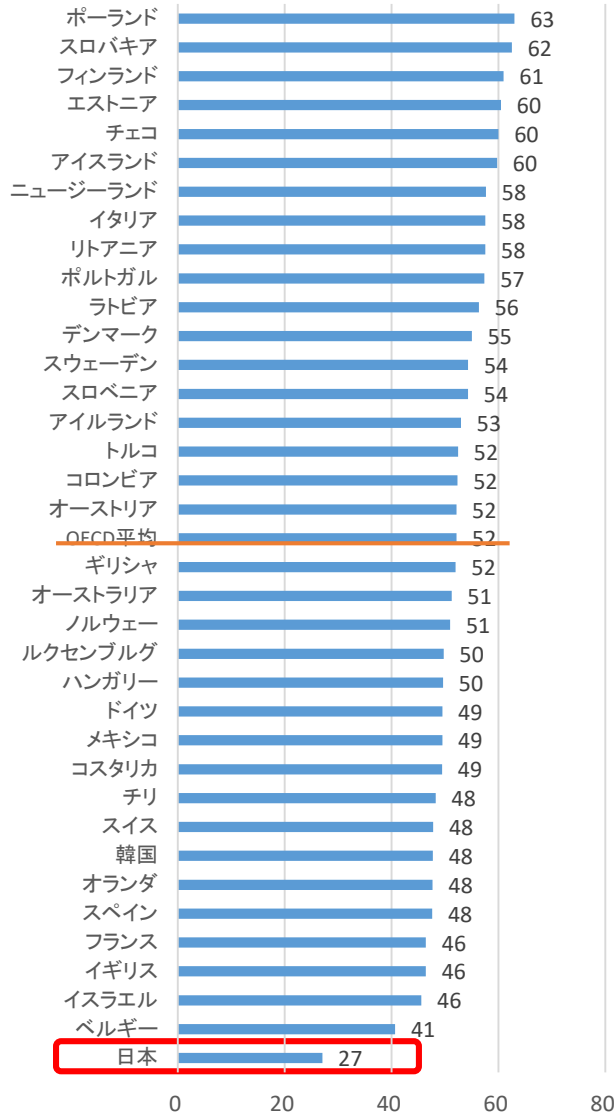
理学部	22,141人
工学部	60,383人

資料出所: 文部科学省「学校基本統計」(各年5月1日現在)
 ※資料出所は、実績値の出所を示すもの

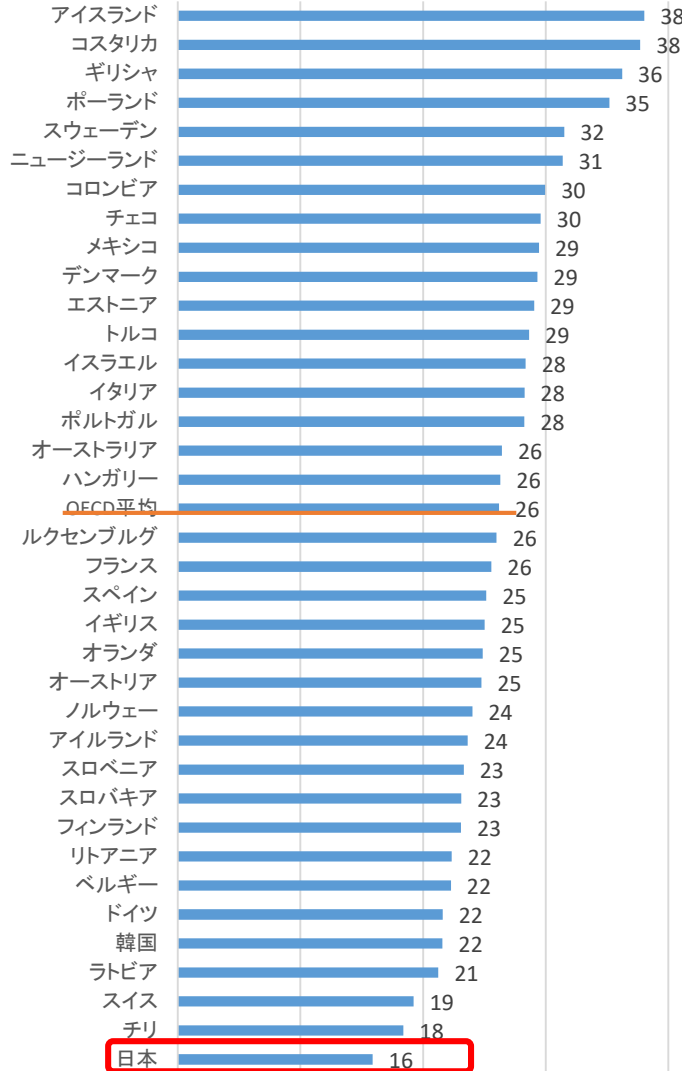
OECD 大学等入学者女性割合

昨年度データから傾向や平均値はほぼ変わっておらず、自然科学系、工学系で日本はOECD諸国の中で最下位。

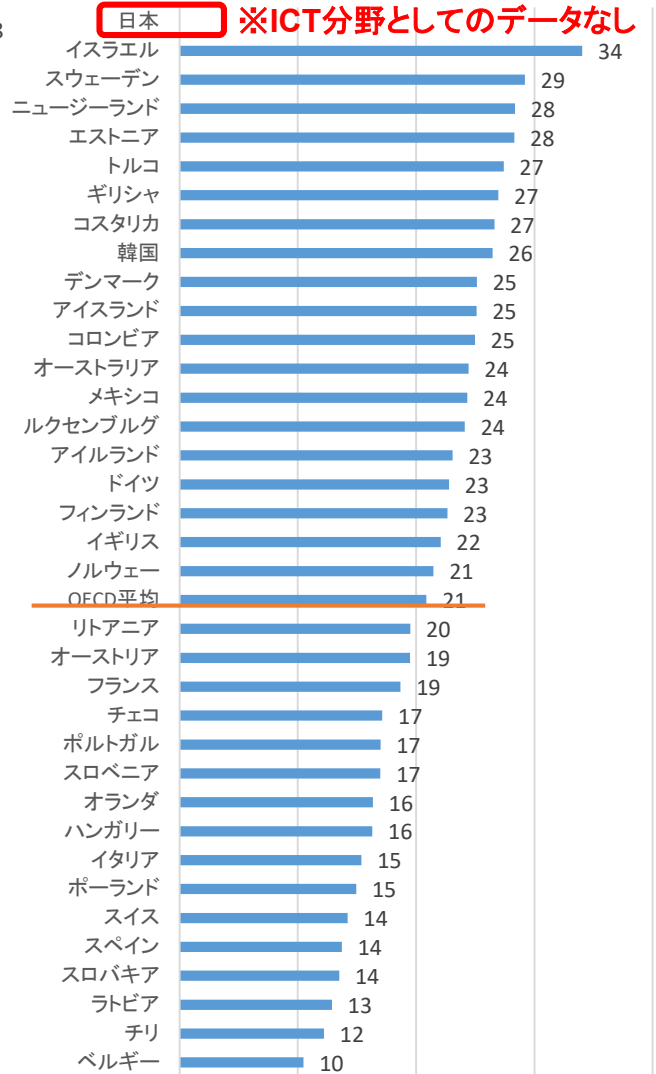
Natural sciences, mathematics and statistics



Engineering, manufacturing and construction



Information and Communication Technologies (ICTs)



調査概要

【調査の背景と目的】

我が国の理工系分野における女性研究者・技術者の割合は依然として低い水準にあり、今後、イノベーションの創出によって社会の課題を解決するためにも、女性研究者等の活躍を推進することは急務である。しかしながら、特に理工系分野において次代を担う女子学生の比率は低い状況である。本調査では、地域によって異なる進路選択の実態の把握及び要因分析を行い、その結果を踏まえて、女子生徒の理工系分野への進路選択を促進するうえで重点的な取組が求められる分野・地域等、今後の事業のフォーカス・エリアを特定することを目的とする。

【調査実施方法】

①統計に基づく集計・分析

- 文部科学省「学校基本調査」の二次分析により、出身都道府県ごとの学部別男女別入学者数の集計や、進路選択に関する地域別の特徴について整理し、都道府県別にみた理工系分野への進学状況の実態を把握。
- さらに、理工学部の設置状況、地域の社会経済状況、産業構造等に関する各種統計データと、4年制大学や理工系分野への進路選択との関連性を分析し、大学進学率や理工系分野に占める女性比率の地域格差に影響を与える要因について検討。

②高校生に対する進路選択アンケート調査

- 高校生の進路希望や進路選択の理由、保護者や教員からの働きかけ、固定的性別役割分担意識等を把握するため、インターネット・モニターを対象としたWebアンケート調査を実施。
- 全国の高校生から性別や居住地域に偏りなく回答を得るため、性別・地域ブロックによる割付を実施。
- 最終的に、高校生本人から4,594件の回答を得た。回収件数は以下のとおり。

性別	地域ブロック								計
	北海道・東北	南関東	北関東・甲信	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄	
女性	273	666	200	106	310	415	224	291	2,485
男性	203	661	146	68	246	393	177	175	2,069
その他	9	10	5	0	2	8	1	5	40
合計	485	1,337	351	174	558	816	402	471	4,594

※上記のほか、「高校生の子を持つ保護者（モニター登録者）に配信し、保護者による代理回答が困難な一部設問を除き、保護者に回答を依頼する方法」による回収も行い、保護者の代理回答で446件の回答を得た。したがって、高校生本人の回答と合わせ、回収数は5,040件であった。ただし、保護者による代理回答では、高校生本人の回答と比べて「わからない」の回答割合が高いなど、一部の設問で回答傾向の違いが確認されたことから、集計対象は高校生本人の回答のみとしている。

- 女性の理工系分野への進路選択を促進するうえで、人口「5万人未満」の地域は相対的に課題が大きく、今後重点的に取り組むべき地域と考えられる。



➤ 「5万人未満」の地域における課題

- 進路に関して、近隣に大学等の高等教育機関が少なく選択肢が狭い。
- 地域的に、理系的経験に関する資源が少ない。（イベント等の開催頻度が低い、イベント等へのアクセスが悪い等）
- 家庭内に大学に関する有形無形の資源が少ない。（親世代における大卒者の比率が低い等）

- 「5万人未満」の地域において今後求められる取組として、大きく以下の2点が挙げられる。

➤ 高等教育機関へのアクセスの改善

（情報提供等を通じた、理工系分野への進学・職業イメージの向上）

- 生徒の進学意欲を高める観点から、理工系の学部で学んだり研究したりする内容の具体的なイメージや、卒業後の理工系分野での就職に関する情報提供を、中学生や高校生に対して積極的に実施。
- 家庭環境や居住地域により進学しにくい生徒に対し、大学進学及び入学後のサポート等を促進することも有効。



➤ 幼少期からの体験やイベント等を通じた、理工系分野への興味を深める機会の創出

- 出前実験教室やオンライン教室の開催のほか、スクールバス等を活用したイベントへのアクセスの向上。
- 5万人未満の市町村の児童・生徒が参加しやすいような工夫を講じるとともに、参加者の性別が偏らないよう、児童・生徒及びイベント登壇者の性別統計収集を必須とすることが望まれる。
- 市町村の協力体制の下、公民館等の地域の拠点を活用したオンラインイベント（パブリックビューイング等）の開催も一案。

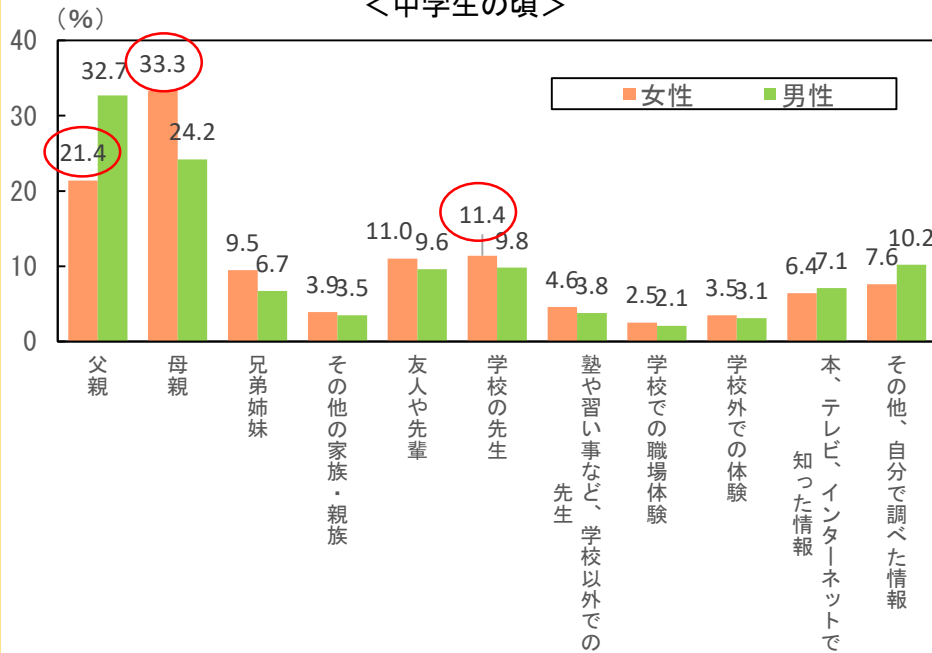
女子の進路選択への親の影響について

～内閣府委託調査より～

- 中学生の頃に、働く上でのイメージや進路選択において影響を受けた人は、女性は母親、男性は父親と、同性の親の影響を顕著に受けている。
- また、女性保護者の最終学歴が理系の場合、その子(女子)は、将来の進路を「理系」とする割合が高くなっている。

進路選択において影響を受けたもの

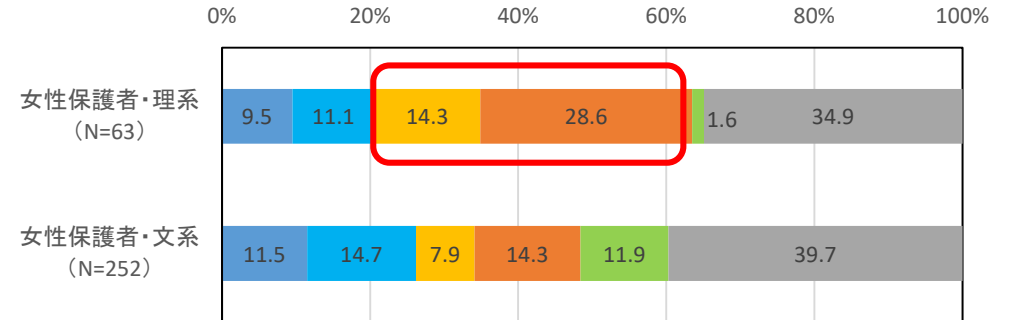
<中学生の頃>



※出所:「多様な選択を可能にする学びに関する調査」
(平成30年内閣府調査)

女性保護者の最終学歴とその子(女子)の進路意向

(進路意向)

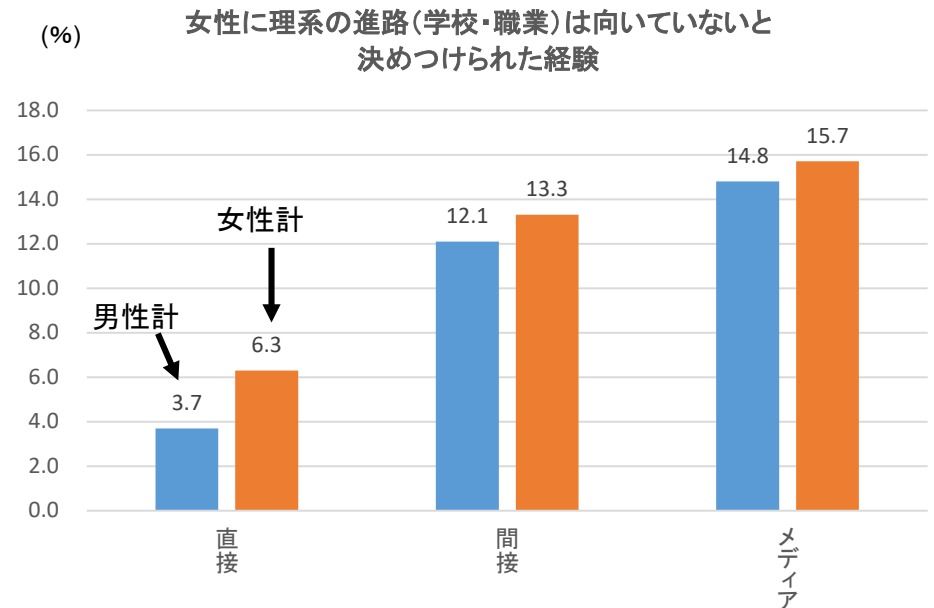
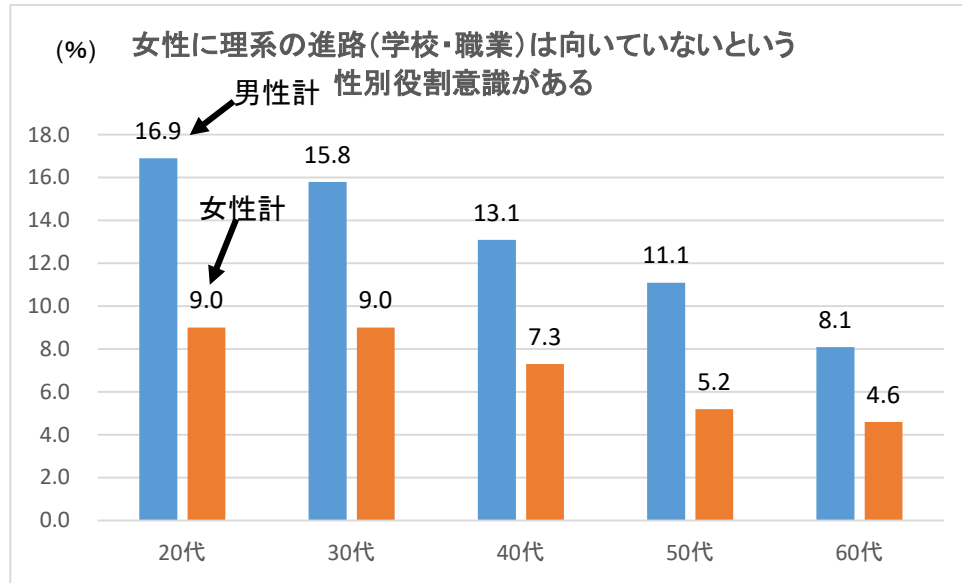


※出所:「女子生徒等の理工系進路選択支援に向けた生徒等の意識に関する調査研究」(平成29年内閣府調査)
調査対象は中学2年生。

理系の進路選択に関するアンコンシャス・バイアスについて

～「性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究より～

- 昨年度に続き、調査研究の中で理系の進路選択に関するアンコンシャス・バイアスに関する項目について調査を実施。
- 昨年度調査結果と同様に、「女性に理系の進路(学校・職業)は向いていない」という測定項目について、「そう思う」又は「どちらかと言えばそう思う」と回答した者の割合は、いずれの世代でも男性の方が高い。
- 一方、そうした考えを決めつけられた経験のある女性の割合は、直接・間接を問わず、男性より多い。また、メディアで見たり聞いたりしたことがあると回答した者の割合は、男女ともに約15%となっており、こうした経験が女子学生の進路選択に影響を与えていることも考えられる。



※【直接】直接言われたり聞いたりしたことがある
【間接】直接ではないが言動や態度からそのように感じたことがある
【メディア】メディアで見たことがある

※出所:内閣府男女共同参画局

令和4年度性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究

中学校教員向けアンコンシャス・バイアス 払しょくのための啓発資料

教員等の指導者の方々へ向けて、

○男女共同参画の視点の必要性

○無意識に持っていた固定概念・考え方や言動への気付き

＜無意識に行っている言動＞

- ・テストの点数の良かった女子生徒に、「女子なのに数学／理科ができて、すごいね」と言葉をかけている
- ・理科の実験授業において、操作は男子、記録は女子、という生徒間の役割分担が自然とできており、それに任せている

○男女共同参画に配慮した理数授業の事例

○教員のアドバイスをきっかけに理数系に進んだ女性の事例

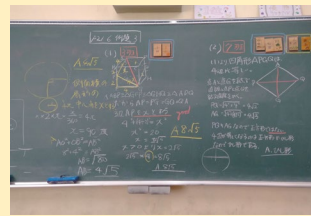
等から構成される、啓発資料「男女共同参画の視点を取り込んだ理数系教科の授業づくり～中学校を中心として～」を作成。



▲じゃんけんをしながら確率を計算する様子



▲授業で生徒が作成したイルミネーションの一部



▲生徒が実際に行った板書発表の内容

理工系の仕事

1 NHK札幌拠点放送局
技術部 副部長
のりしほ
野呂志穂さん

□ 中学生時代は仕事に関する明確な夢や目標はなかったものの、教員からの「感銘深い動画」の視聴により情報工学科が注目されていく。就職先も高い」というアドバイスをきっかけに進学への進路を決定した。

□ 高専在学中のオーストラリア留学がきっかけで放送局の仕事に興味を持ち、NHK札幌放送局に就職。現在は数少ない女性の技術職員として活躍された。

□ 仕事と育児の両立に悩みつつも家族のサポートを受けながら頑張る。現在は管理職として幅広い仕事にチャレンジしている。

■ 現在の仕事の内容
放送局の技術職として、ニュース映像の仕分けやニュース番組の送出、放送用テープの準備など、放送をオンラインで実行するための様々な業務を担当しています。また管理職としての立場から、若手職員への指導も担当しています。近年では採用者の男女比率が女性に偏っています。職場生活が充実することでチームワークの向上や職場環境の改善に貢献があると感じています。

■ 仕事のやりがい
放送局には多種多様な職種があり、チャレンジする機会に恵まれていると感じています。例えば社内イベントの企画など、1人1人の強みや個性が、新卒社員で実践する可能性は十分にあります。放送局では、様々な業務経験を通して自身の得意分野を見つけ、その強みを活かすことで社会に貢献している方が多いです。放送局の仕事に誇りを、技術職にほのぼのとした笑顔が溢れているのではないのでしょうか。

■ プライベートとのバランス
入職後の生活リズム、通勤時間や育児休暇を利用して2人の子どもを育てながら、仕事を続けてきました。子どものために参加するイベントに対しては積極的に参加していましたが、仕事も頑張りたいという思いもあり、家事や育児、子育てをサポートによって次第にこたえ感も増え、最終的に仕事を辞めてプライベートを優先できることになりました。「自分の力だけで仕事を辞めるのではなく、周囲の力を借りながら仕事を辞めたい」といった気持ちで、無理せず仕事と家庭を両立する方向で決断することができました。

■ 今後に向けて
様々な分野の仕事にチャレンジすることはもちろんですが、自身の得意分野の立場として、定年定時や引退をきっかけに業界関係の業務に携わって貢献に繋がらせてほしいと考えています。同じ職種でも、全ての職員が異なることに挑戦し、活躍の場を広く確保してほしいと思います。

中学生へのメッセージ動画
http://wwwc.cao.go.jp/lib_008/c-challenge/movie_20210317_02.html



文部科学省と連携して普及を図り、教員等の指導者の無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の払しょくに取り組む。

令和4年度は本啓発資料をもとに、研修用動画を制作する予定。

理工チャレンジ (リコチャレ!) ~女子生徒等の理工系への進路選択を促進~



リコチャレは、女子中高生等が、理工系分野に興味・関心を持ち、将来の自分をしっかりイメージして進路選択することを応援するため、平成17年(2005年)より内閣府男女共同参画局が中心となって行っている取組です。

取組

夏のリコチャレ

- ・夏休み期間中、大学、企業 学術団体等がイベントを実施
- ・内閣府・文科省・経団連がサポート

募集

リコチャレ応援団体

理工チャレンジの趣旨に賛同する
大学・企業・学術団体等 **861** 団体
令和4年12月現在

ウェブサイト

「理工チャレンジ」

- ・イベント情報
- ・ロールモデル情報
- ・団体からの応援メッセージ



理工系女子 応援ネットワーク会議

- ・理工系女子応援ネットワークに登録した 団体が出席
- ・相互連携に向けた情報共有や取組方針を検討



理工系女子 応援ネットワーク

リコチャレ応援団体のうち、具体的な
支援を行う団体 **211** 団体
令和4年12月現在

シンポジウム

- ・有識者や実際に活躍する女性研究者
- ・技術者(ロールモデル)による情報発信
- ・IT業界で活躍する女性(ロールモデル) 提示等

STEM Girls Ambassadorsによる理工系女性人材育成

- ・STEM Girls Ambassadorsを派遣し、全国5都市でワークショップ等を開催

若手理工系人材(ロールモデル)による出前授業[新規]

- ・人口5万人以下の市区町村の自治体や学校へ、企業・大学等の理工系人材を派遣する

調査研究

- ・女性生徒等の理工系分野への進路選択支援を目的とした 各種支援策の調査研究、事例集作成
- ・女子生徒等の理工系分野への進路選択を阻害するアンコンシヤス・バイアスの払拭を目的とする研修用動画制作

内閣府・文部科学省・日本経済団体連合会の共催で、夏休み期間を利用して行われる主に女子中高生等を対象とした、企業・大学・学術団体等のイベントを取りまとめて発信

職場見学、工場見学、シンポジウム、実験教室、先輩女性社員との交流等



RIKOCHALLENGE SUMMER OF 2022



内閣府・文部科学省・経団連共催



こども霞が関見学デー「求む！未来の理工系女子！」
(株式会社エスワイシステム・内閣府男女共同参画局)



オンライン女性交流会〜リケジョのお仕事紹介〜
(太平洋セメント株式会社)

夏のリコチャレ2022 開催実績

参加団体数：92

イベント数：162

参加者数：5,000名以上

(アンケート提出53団体分)



未来ひろがる産総研ラボ(産業技術総合研究所)



Girls summer Labo ハイブリッド(ライオン株式会社)

理工系女子応援ネットワーク会議

- 理工系女子応援ネットワークに登録した団体を主な対象として開催
取組に関心のあるリコチャレ応援団体と、自治体も参加
- 令和4年度は10/17にオンラインで開催 89団体・131名が出席
- 事例紹介、取組情報交換、団体間ネットワーキング等、今後に向けた連携強化を行う

基調講演

お茶の水女子大学 理系育成啓発研究所
「女子中高生の理系への進路選択を後押しするために」

- * 女子生徒の理系進路選択を促すための教員・保護者向け講演会を実施していることのほか、附属幼稚園保護者対象のセミナーを開催していること等の照会あり。

教員・保護者向け講演会

- 教育関係者向けのシンポジウムは2015-2021年度に6回開催した。
- 教員・保護者の両者を対象としたシンポジウムを2021年度から開催している。

オンライン講演会 お茶の水女子大学 理系フロントランナーへの挑戦プログラム (ST 女子中高生の理系進路選択支援プログラム) 女子生徒の理系への進路選択支援を後押しするために

【開催日時】2021年8月9日 14:00～16:00
【主催】お茶の水女子大学 理系女性教職実践開発機構
【協賛】東京都教育委員会
【出演者】
■講演者
お茶の水女子大学 理系育成啓発研究所 所長 藤田 美津子
■コーディネーター
お茶の水女子大学 理系女性教職実践開発機構 機構長 藤田 美津子



取組事例発表①

ライオン株式会社/兵庫県明石市
企業と自治体が協働し、オンラインと対面の
ハイブリッド方式での実験教室

2022年リコチャレ自治体と協働～工夫ポイント～

①ポスター、チラシ作成
②実験の事前打ち合わせ
③オンラインでの接続確認

準備・当日の様子

取組事例発表②

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
オンラインでの人工イクラを作る実験やVR体験

工夫した点:実験準備のサポート

- 実験キット送付の際、詳細な資料を添付した
- 講師とともに、実験準備手順の動画を制作した
- 当日は、受付後に、3～4名ずつ実験準備ルームに入っていただき、事務局2名が動画を显示しながら、実験準備のサポートをした(30分程度)



グループディスカッション

イベント実施済みの団体からイベントや集客の工夫点の
情報共有や、イベント実施に関する疑問点の質問確認、意見交換等

シンポジウム


・内閣府・文部科学省・JSTの共催 ・女子中高生、保護者、教員等を対象

2022年度オンラインシンポジウム

公開：令和4年7月12日～

進路で人生どう変わる？ 理系で広がる私の未来2022

動画公開セミナー



基調講演

秋山 茉莉子

AKIYAMA Mariko
東京大学大学院工学系研究科
博士3年

プロフィール

1995年、東京都出身。東京大学工学部を卒業後、同大学院新領域創成科学研究科に進学し修士号を取得。2020年、同大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻に進学し、現在博士課程3年、学部4年から所属する研究室において、小型衛星向けのエンジンの研究を遂行。研究の傍ら、小型衛星開発プロジェクト2件にもエンジン開発チームとして参加している。

理系で広がる
私の未来
2022



『あなたの「好き」を追いかけてみよう
～理系志望の皆さんへ～』

講演

富島 寛

TOMISHIMA Hiroshi
一般財団法人 山田進太郎D&I財団
常務理事

プロフィール

早稲田大学第一文学部卒業。2013年、財団の理事長である山田と共にメルカリを創業。プロダクト責任者としてメルカリの立ち上げ、サンフランシスコでアメリカ版の立ち上げなどを行う。2019年退社し、現在は財団の活動と共にエンジェル投資家など行っている。

理系で広がる
私の未来
2022



『好きなことをやろう！
～理系志望を当たり前に女性が選択できる社会へ～』

理系で活躍する先輩による経験談発表

田端 愛恵

TABATA Itoe
株式会社大島造船所 基本設計部 基本設計2課 性能開発係

プロフィール

1995年、長崎県出身。中学の頃から理系科目（化学や数学）が得意であり、高校では理系を選択。大学では化学系を専攻し、大学4年生から大学院2年生までの3年間は大学の研究室へ配属。研究室では主に有機金属化学という分野の専攻で、環境問題の解決に繋がる「人工光合成」の研究を行っていました。大学院卒業後は新しい分野を経験したいと考え、2020年に株式会社大島造船所に入社。現在は船の設計に携わっています。

理系で広がる
私の未来
2022



『私が理系を選んだきっかけ
少しの興味から可能性は広がる』

門脇 万里子

KADOWAKI Mariko
国立研究開発法人 物質・材料研究機構
研究員

プロフィール

1993年、三重県出身。東北大学工学部を卒業後、東北大学大学院 工学研究科に進学し、2021年3月に博士号を取得しました。その後、2021年4月に国立研究開発法人 物質・材料研究機構に就職し、現在2年目の研究員として働いています。私たちの日常生活に欠かすことのできない「金属材料」の耐食性を向上することを目的に、日々研究に取り組んでいます。

理系で広がる
私の未来
2022



『研究職での仕事内容と理系への進路選択のきっかけ』

阿部 花織里

ABE Kaori
山形大学大学院 理工学研究科 建築・デザイン・マネジメント専攻
博士前期課程 1年

プロフィール

1999年、福島県出身。高校卒業後、山形大学工学部建築・デザイン学科に入学。卒業論文では、木を用いた住宅地盤改良の沈下抑制に関する実験的研究を行った。現在、同大学大学院理工学研究科建築・デザイン・マネジメント専攻、博士前期課程1年。

理系で広がる
私の未来
2022



『選択の先で出会えたこと、建築で学ぶ今』

リコチャレ応援団体(※)の紹介、イベント等の掲載。そのほか、先輩理工系女性からのメッセージを掲載するとともに、質問も可能。

※861団体(行政機関:51団体、企業:265団体、学術・研究機関等:139団体、大学等:364団体、その他:42団体)

「リコチャレ応援団体」「理工系女子応援ネットワーク」の紹介

▶団体種別一覧に戻る ▶企業一覧に戻る



旭建設株式会社

宮崎県日向市向江町1丁目200番地
▶[旭建設株式会社](#)へ

組織概要

「便利になった」「近くなった」「安心して暮らせる」「ありがとう」ただその言葉をもらっただけでいい。家族に誇れる仕事、四方よし(地域よし、実業者よし、企業よし、未来もよし)を目指して、昭和34年以来築き上げた経験を活かして、「土木の道」を追求しています。

「地域よし」として地域に密着したボランティア活動(地域貢献活動)を、「実業者よし」として高品質の工事を完了させ、「企業よし」として社員の人間力向上を目指し、「未来もよし」として未来を担う子供たちに気づきの心を育ませています。

当社は土木工事の施工管理を主な仕事としており、建設・土木科出身の技術者だけでなく、様々な学科の人材が活躍しています。そして「常に考える」の精神で、危険ゼロを目指し、安全と健康の確保を最優先としながら業務を行い、挑戦し続ける会社であり続けています。



(平成30年3月完成)南城市改良工事



(平成29年11月完成)種子田法面工事小

理工系分野・部門の紹介

当社は、舗装や法面・護岸・橋梁・トンネルといった主に官公庁の土木工事一式を行う建設業です。暮らしやすい世の中にし、豊かな地域や国土を子供や孫の代まで残していくため日々仕事に励んでいます。

当社の仕事は施工管理です。施工管理とは、工程管理や安全管理、品質管理などを現場で行い、発注者との打合せや現場での指導を行う現場管理や監督業務が主な仕事ですので、女性の技術者でも大いに活躍できる仕事です。現在では、多くの建設の企業で女性技術者が最前線に立ち活躍しています。

<<新人女性技術者の一日>>

入社2年目

酒井希実さん(23歳)の1日

5:30	起床
7:25	現場へ到着
7:30	朝礼、KY活動
8:00	現場近況、写真撮影、出来形確認など
9:00	業務作成、調査
12:00	昼休み
12:45	午後の打ち合せ

協力業者さんのコミュニケーションを取りながら、一日の作業内容を確認

作業時間終了後は、心の中を整理したり、自分の体調を

協力業者さんへお家の紹介

理工チャレンジ

女子中高生・女子学生の理工系分野への選択



先輩からのメッセージ

▶[先輩からのメッセージ](#)のトップページに戻る



酒井 希実さん

▶[旭建設株式会社](#) 工事部アセットマネジメント部門

2017年に入社し、工事全体の管理やICT関連業務など、現場に携わる仕事をこなし、土木技術者として働き出し二年が経ちました。大学を卒業するまで、土木について興味を失ったことがありませんでしたが、その分、日々新しい発見があり毎日が勉強で、充実した日々を送っています。

先輩に質問!

理工系分野を選択した時期・理由

短大2年生の時に、合同説明会で聞いた「帰国に携える仕事」「地域の為の仕事」という言葉に感銘を受けて入社を決めました。自分の住んでいるところが自然に囲まれていることもあり、自然に携わる仕事かと思ったこと、そしてずっと住んで来た地元の為にかかしたい! そう感じたことも土木技術者の道に進むきっかけになりました。

現在の仕事(研究)の魅力やおもしろさ

橋を架けたり、道路を作ったり、様々な工程を経験できることが魅力的です。そして、現場は毎日少しずつ完成に近づいていく、そんな日々変わる現場を間近で見られることも、現場に携わる人たちの特権だと思います。

そして、学生の頃に経験した「何かを成し遂げる為に、みんなで頑張る」という行為も経験できます。それも、現場毎に関わる人が違う為、その都度新しい喜びを得ることが出来ます。

『苦労した分、達成感がある』建設業界にはこの言葉がピッタリだと思います。

女子中高生・女子学生の皆さんへのメッセージ

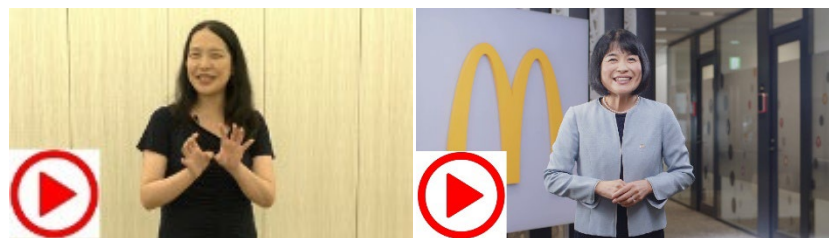
『土木』と聞くと、毎日汗を流し、泥まみれになりながら頑張る仕事...そんなイメージをもちたれる方が多いと思います。私もそう思っていました。実際は3次元のデータを作成したり、業者の方と打ち合わせをしたり、対外的な仕事が大半を占めています。安全かつ期限までに工事が完了できるように様々な仕事をこなし、それが建設業です。

普段行かなく通っている横や道路を、実際に作る側になってみると、ありがたいなと思うことが増えました。前に担当していた現場では高速道路の基礎をつくる工事をしていましたが、その場所を選るたびに「私が関わった場所だ」と達成感を見えます。私達の仕事は、今も未来も大切にしてお仕事です。自分の大好きな地域を守り、支えていける建設業界と一緒にチャレンジしてみませんか?

1. 地方公共団体や学校等において開催されるセミナー、シンポジウムでの講演等
2. 広報誌やWebサイト上でのメッセージ発信
3. その他本事業の趣旨に鑑み相応しい活動

女子生徒等の理工系分野への進路選択を促進するため、理工系分野で活躍する多様な女性の姿（ロールモデル）を示すとともに、女子生徒等の理工系進路選択を社会全体で応援する気運醸成を図ることを目的。

ロールモデルの提示策を強化すべく、今年度から、Ambassadorsからのメッセージ動画をリコチャレHP及び男女共同参画局公式YouTubeにて公開。



Ambassador一覧（令和5年1月時点） ※敬称略・五十音順

阿部 玲子	株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル インド現地法人 取締役会長
杉本 雛乃	学生（東京大学大学院工学研究科バイオエンジニアリング専攻・2018ミス・インターナショナル日本代表）
ズナイデン 房子	日本マクドナルド株式会社 取締役上席執行役員 CMO
玉城 絵美	H2L,Inc.CEO、琉球大学工学部教授
中島 さち子	音楽家、数学研究者、 (株)steAm代表取締役
山崎 直子	宇宙飛行士
渡辺 美代子	日本大学 常務理事、NPO法人ウッドデッキ 代表理事

講演実績（2022年度以降）

実施（予定）日	イベント・派遣先学校名
22/8/23	栃木県理工系女子のWorkフェスタ2022
22/8/24	栃木県理工系女子のWorkフェスタ2022
22/10/4	学校法人星野学園（埼玉県川越市）
23/1/18	安田女子高等学校（広島県広島市）
23/2/10	近畿大学付属広島高等学校東広島校 （広島県東広島市）
23/2/27	松茂小学校（徳島県板野郡松茂町）
23/3/2	山陽小野田市高千帆中学校 （山口県山陽小野田市）
23/3/10	八幡浜高等学校（愛媛県八幡浜市）
23/6月	山陽小野田市立竜王中学校 （山口県山陽小野田市）

※2019年度以降の講演参加者計：約1,300名。ただし、2020～21年度は新型コロナウイルス感染拡大により派遣実績なし

「女性活躍・男女共同参画の重点方針2022」

(女性版骨太の方針2022) (抄)

(令和4年6月3日政府決定)

IV 女性の登用目標達成（第5次男女共同参画基本計画の着実な実行）

(4) 科学技術・学術分野

科学技術・学術分野において男女共同参画を進め、研究・技術開発に多様な視点を取り入れていくことは、ジェンダード・イノベーションの創出にもつながり、重要である。このため、大学の理工系の教員（講師以上）に占める女性の割合や大学の研究者の採用に占める女性の割合を令和7年までに引き上げる目標を分野別に掲げるとともに、大学（学部）の理工系の学生に占める女性の割合を毎年度高めるとの目標を定めている。また、大学の准教授及び教授等（学長、副学長及び教授）に占める女性の割合（令和3年：准教授26.1%、教授等18.2%）を令和7年までにそれぞれ引き上げる目標（准教授30%、教授等23%）を掲げているところ、これらの目標を達成するため、以下の取組を進める。

○理工系分野への進学を選択する女子学生への支援

給付型奨学金や授業料等減免の制度について、理工系や農学系の分野に進学する女子学生を対象とした官民共同の修学支援プログラムを創設する。【文部科学省】

女子中高生の理系分野に対する興味・関心を喚起し、理系分野へ進むことを支援するための取組を行っている大学等に対して、教育委員会や学校等の協力を得て効果検証を行うことを促すとともに、取組の好事例の普及を図る。また、出産・育児等のライフイベントと研究との両立や女性研究者の研究力向上を通じたリーダーの育成を一体的に推進するダイバーシティ実現に向けた大学等の取組を支援するとともに、女子中高生の適切な理系進路選択を促すため、中・高等学校との連携強化を一体的に進める。【文部科学省】

IV 女性の登用目標達成（第5次男女共同参画基本計画の着実な実行）

(4) 科学技術・学術分野

○大学入学者選抜における多様な入試方法の推進

学部等の枠を超えた大学入学者選抜の実施などによる入学後の専攻分野の決定（レイトスペシャライゼーション）や、入学後の専攻分野の転換、編入学など、学生が大学での学修の中で専攻分野を決定したり、専攻分野の転換をより容易にしたりする等の複線的・多面的な学びを通じて、早期に文理選択を行う必要のない環境の構築を進め、女子の理工系分野への進学者の増加を目指す。【文部科学省】

女子学生の占める割合の少ない分野の大学入学者選抜における女子学生枠の確保等に積極的に取り組む大学等に対して、運営費交付金や私学助成による支援を強化する。【文部科学省】

○大学への資源配分におけるインセンティブの強化

国立大学法人運営費交付金や私立大学等経常費補助金を始めとする大学への資源配分において、学長、副学長及び教授における女性登用に対するインセンティブを引き続き付与する。また、出産・育児等のライフイベントが女性研究者のキャリア形成に支障を来さないよう、大学において若手教員を採用する際には、産前産後休暇や育児休業の期間を配慮するよう促す。

【文部科学省】

IV 女性の登用目標達成（第5次男女共同参画基本計画の着実な実行）

(4) 科学技術・学術分野

○科学技術・学術分野における女性登用の促進

大学や国の研究開発法人も含めた研究機関に対して、女性活躍推進法を活用し、機関の特性等に応じて、女性教員の採用割合や学長、副学長等の女性管理職への登用割合などの目標及びこれらの目標を達成するための具体的取組を定めるよう要請した結果を把握する。【文部科学省、関係府省】

○女子中高生の理工系の学びや分野選択の促進

保護者や学校、社会による「女子は理系に向いていない」等のジェンダーバイアス解消に向けて、政府・大学・産業界一体となってSNS等を通じて多角的に情報発信する。また、大学・企業の双方からロールモデルを提示し、ロールモデルによる出前授業を実施すること等により、理系選択者の増加に向けた取組を行う。【内閣府、文部科学省、経済産業省】